

朗 読 文

企業の管理職に、どんな人間が好ましいかとたずねると、積極的な人間、やる気のある人という答えがやはり上位を占める。能力は高くても、消極的で、仕事にやる気があるのかどうかわからない人間は好ましくないというわけである。

積極的な人が好ましく思われるのは、何も企業社会の中だけに限ったことではない。消極的で煮えきらない男は、女性から一番嫌われるタイプの一つである。

私の場合も、はじめての出版社から原稿執筆を依頼されたような時、無理をしても書こうという気になるのは、担当者が積極的で熱意の感じられる時である。逆に、担当者が消極的だという印象を受けると、この人と仕事をして大丈夫かという不安が起こり、断ってしまうことも決して少なくない。

今さらこんなことを言われなくても、消極的より積極的な方が好ましいのはわかっていて。もともと消極的な性格だから困っているのだ、と思う人もいるかもしれない。しかし、私の場合でいえば、この積極的か消極的かということはどこでみているかという点、もちろん、相手を深く知って判断しているわけではない。案外ちよつとしたところで印象は分かれてくるのである。

たとえば、原稿を依頼してきた担当者と会う約束をする時、私が半月後くらいに空いている日にちと時間を指定したのに対して「では、その日に」とあつさり引きさがるような相手には、積極性はあまり感じられない。むしろ仕事に対するやる気を疑ってしまうことさえある。

それに対して「もつと早くありませんか。できれば一刻も早くお目にかかりたいのですが」という相手には、多少の強引さは感じて、それだけこの仕事に積極的に取り組んでいるのだという好印象をもってしまうのである。つまり、積極的だという印象を与える人は、自分の積極性をアピールするのがまい人と言いかえてもよいだろう。

この積極性を演出するためには、ポイントがいくつかある。一つは、早く歩きびきび動作するというように、エネルギーを連想させるような行動をすることである。また、スピーディーさを見せるのも、積極的だというイメージ作りに役立つ。あるいは、前の二点と似ているかもしれないが、人よりも一歩先に出るというのも、積極性を強く印象づけるポイントになる。

いずれにせよ、日常生活のやり方をちよつと変えるだけで、消極人間の汚名を捨てて、自分を積極人間に見せることは十分に可能なのだ。自分を積極的に見せる方法は、単に見せるだけでなく、じつは自分を積極的にする方法でもある、ということをつけ加えておこう。